

外国の病院に学ぶ感染予防対策 ヨーロッパの病院清掃システムについての考察(その2)

(株)メディカル・マネジメント・サポート¹⁾、オービス環境マネジメント研究所²⁾、石川県立中央病院呼吸器内科³⁾、自治医科大学麻酔科⁴⁾、公立豊岡病院組合梁瀬病院薬局⁵⁾、蒲郡市民病院薬局⁶⁾、済生会新潟第二病院麻酔科⁷⁾、衆和会桜町病院看護部⁸⁾、がん研究会附属病院看護部⁹⁾、明治製菓(株)学術部¹⁰⁾、古田信弘¹⁾、向井征二²⁾、西耕一³⁾、粕田晴之⁴⁾、由良秀典⁵⁾、岡田成彦⁶⁾、市川高夫⁷⁾、豊福睦子⁸⁾、川浪慶子⁹⁾、波多江新平¹⁰⁾

はじめに 以前に当学会にてヨーロッパの院内清掃システムについて発表した、その後2年間に7回延べ20病院の視察を通じて得たことを紹介する。

埃の除去を重要視し、埃の溜まりにくく、掃除しやすい建築構造、材質などは以前に述べたが、病室、ICU、手術室等各国の病院でそれぞれ細部に及ぶ視察を通じて、共通の基本的な考え方を知る機会を得た。

状況 手術室等については、空調に関しては我が国より基準値が緩やかなクラス100,000が主流であるものの、日常各手術後、手術台を熱湯洗浄機により洗浄し、床はポリッシャー、あるいは自動床洗浄機で洗浄を行っている。病棟床面においては、患者退室後あるいは廊下では定期的にバフイング作業(鏡面仕上げ)により、床表面の平滑管理を行い、埃や汚れの除去性を高める対策を行っている。また日常の清拭方法も、近年オフロケーション方式が急速に普及している。

考察 これらは何れも、我が国が消毒により清浄度回復が出来るという考え方が主流であるのに対し、ヨーロッパでは消毒剤使用による耐性、環境に対する影響また経済的な面も配慮し、消毒剤の使用を必要最小限にし、温湯熱湯あるいは洗剤の界面活性力、また清掃道具も機能的に利用した物理的除去、いわゆる掃除で清浄度を維持するという考え方に基づくものである。

これらのために建築・清掃・医療器械・廃棄物等各関連業界、医療部門、事務部門など実に機能的に連携研究対策がなされている。